VVAULT® AUDIT

警告・障害の解決方法

Warning List for VVAULT AUDIT 4.5

はじめに

本文書のご利用にあたって

- 本文書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。
- 本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のもので、最新版の製品および製品サイトと文言やデザイン等が異なる場合があります。
- 本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。

目次

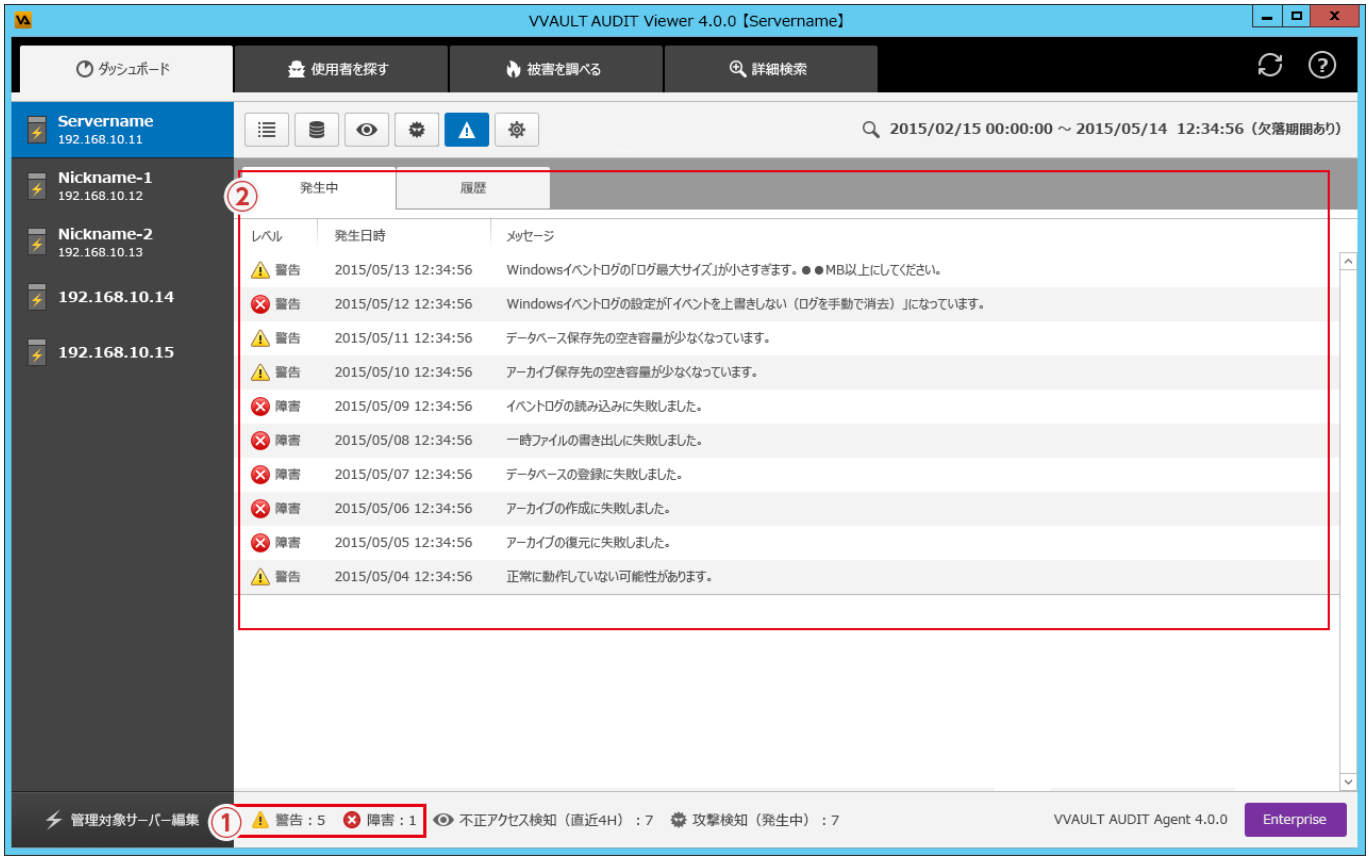
1 警告・障害情報の確認

Warning List for VVAULT AUDIT 4.5

警告・障害情報の確認

警告・障害レポート画面ではVVAULT AUDIT全体で発生した問題について確認できます。発生中タブでは現在発生中の問題が、履歴タブでは解消された問題が一覧表示されます。各部の名称と役割については以下を、各問題の詳細については、「2 警告・障害 一覧（P.8）」をご覧ください。

警告・障害レポート画面



名称と役割

① 総件数

発生している警告・障害の総件数を表示します。

② レコード

警告・障害のレベル、発生日時、メッセージ、詳細のリンク（場合による）を表示します。

※履歴タブでは上記に加えて「解消日時」が表示され、レコードを削除することができます。

2 警告・障害 一覧

Warning List for VVAULT AUDIT 4.5

警告・障害 一覧

障害

メッセージ	Windowsの監査設定「詳細なファイル共有の監査」が有効ではありません。
発生条件	監査ポリシーにて「詳細ファイル共有の監査」の監視設定が無効になっている。
クリア方法・条件	1. コントロールパネル＞管理ツール＞ローカルセキュリティポリシーを開く 2. 左ツリーより、監査ポリシーの詳細な構成＞システム監査ポリシー＞オブジェクトアクセスを選択 3. 右のペインに表示された「詳細なファイル共有の監査」のプロパティを開き、すべての項目にチェックを入れる

メッセージ	イベントログの読み込みに失敗しました。
発生条件	イベントログの読み込み処理でエラーが発生した。(ファイルが存在しないなど)
クリア方法・条件	次のイベントログの読み込み処理で成功する。

メッセージ	一時ファイルの書き出しに失敗しました。
発生条件	一時ファイルの書き出し処理でエラーが発生した。(ファイルの書き出しでIOエラーが発生)
クリア方法・条件	次の一時ファイル書き出し処理で成功する。

メッセージ	一時ファイルの書き出しに失敗しました。(保存先の空き容量不足)
発生条件	一時ファイル保存先の空き容量が不足している。
クリア方法・条件	一時ファイル保存先の変更などで空き容量を増やし、ビューアに表示された警告の「再起動」ボタンを押下する。

メッセージ	ログデータの登録に失敗しました。
発生条件	ログデータの登録処理でエラーが発生した。
クリア方法・条件	次のログデータ登録処理で成功する。

メッセージ	ログデータのインデックスが破損しています。
発生条件	ログデータのインデックス破損を検出した。
クリア方法・条件	全ログデータのインデックスが正常に再作成された。

メッセージ	アーカイブの作成に失敗しました。
発生条件	アーカイブの作成処理でエラーが発生した。
クリア方法・条件	次のアーカイブ作成処理で成功する。

メッセージ	アーカイブの復元に失敗しました。
発生条件	アーカイブの復元処理でエラーが発生した。
クリア方法・条件	次のアーカイブ復元処理で成功する。

メッセージ	アーカイブ保存先に接続できませんでした。
発生条件	アーカイブ保存先に設定されたストレージへの接続テストに失敗した。
クリア方法・条件	アーカイブ保存先に設定されたストレージへの接続テストに成功した。

メッセージ	アーカイブの削除に失敗しました。
発生条件	アーカイブの自動削除処理でエラーが発生した。
クリア方法・条件	次のアーカイブ作成処理で成功する。

メッセージ	CSV出力に失敗しました。
発生条件	CSV出力処理でエラーが発生した。
クリア方法・条件	次のCSV出力処理で成功する。

メッセージ	CSV出力先に接続できませんでした。
発生条件	CSV出力先に設定されたストレージへの接続テストに失敗した。
クリア方法・条件	CSV出力先に設定されたストレージへの接続テストに成功した。

メッセージ	データベース保存先に接続できませんでした。
発生条件	データベース保存先に設定されたストレージへの接続テストに失敗した。
クリア方法・条件	データベース保存先に設定されたストレージへの接続テストに成功した。

メッセージ	レポートメールまたは通知メールの送信に失敗しました。
発生条件	メールの送信処理に失敗した。
クリア方法・条件	メールの送信処理に成功した。

メッセージ	プログラムエラー（理由）
発生条件	予期せぬエラーが発生した。
クリア方法・条件	発生し続ける場合は、テクニカルサポートへお問合せください。

メッセージ	一時ファイル保存先のファイルがデータベースに登録できませんでした。
発生条件	何らかの理由により、一定時間データベースへの登録ができなかった。
クリア方法・条件	DBデータ保存先ドライブの空き容量が不足している可能性があります。 空き容量があるのにもかかわらずこのエラーが解消されない場合は、テクニカルサポートにご連絡ください。

警告

メッセージ	Windowsイベントログの「ログ最大サイズ」が小さすぎます。1GB以上にしてください。
発生条件	Windowsイベントログの「ログ最大サイズ」の設定が、1GB未満となっている。
クリア方法・条件	1. コントロールパネル > 管理ツール > イベント ビューアー を開く 2. 左ツリーより、Windowsイベントログ > セキュリティのプロパティを開く 3.「最大ログ サイズ（KB）」にて、「1048576」以上に変更する。

メッセージ	Windowsイベントログの設定が「イベントを上書きしない（ログを手動で消去）」になっています。
発生条件	Windowsイベントログの設定が「イベントを上書きしない（ログを手動で消去）」になっている。
クリア方法・条件	1. コントロールパネル ＞ 管理ツール ＞ イベント ビューアー を開く 2. 左ツリーより、Windowsイベントログ ＞ セキュリティのプロパティ を開く 3.「イベント ログ サイズが最大値に達したとき」の選択にて、「必要に応じてイベントを上書きする（最も古いイベントから）」もしくは「イベントを上書きしないでログをアーカイブ」に変更する。

メッセージ	Windowsの監査設定「ログオンの監査」が有効ではありません。
発生条件	監査ポリシーにて「ログオンの監査」の監視設定が無効になっている。
クリア方法・条件	1. コントロールパネル ＞ 管理ツール ＞ ローカルセキュリティポリシーを開く 2. 左ツリーより、監査ポリシーの詳細な構成 ＞ システム監査ポリシー ＞ ログオン／ログオフを選択 3. 右のペインに表示された「ログオンの監査」のプロパティを開き、「成功」にチェックを入れる

メッセージ	データベース保存先の空き容量が少なくなっています。
発生条件	データベース保存先に設定されたストレージの使用量が1GB未満となった。
クリア方法・条件	データベース保存先に設定されたストレージの使用量が1GB以上となった。

メッセージ	アーカイブ保存先の空き容量が少なくなっています。
発生条件	アーカイブ保存先に設定されたストレージの使用量が1GB未満となった。
クリア方法・条件	アーカイブ保存先に設定されたストレージの使用量が1GB以上となった。

メッセージ	CSV出力先の空き容量が少なくなっています。
発生条件	CSV出力先に設定されたストレージの使用量が1GB未満となった。
クリア方法・条件	CSV出力先に設定されたストレージの使用量が1GB以上となった。

メッセージ	ユーザー所属グループ一覧の取得に失敗しました。
発生条件	Windowsのグループ一覧の取得に失敗した。
クリア方法・条件	Windowsのグループ一覧の取得に成功した。

メッセージ	一時ファイル保存先の空き容量が少なくなっています。
発生条件	一時ファイル保存先に設定されたストレージの使用量が1GB未満となった。
クリア方法・条件	一時ファイル保存先に設定されたストレージの使用量が1GB以上となった。

メッセージ	一時ファイルの読み込みに失敗しました。（対象ファイル名）
発生条件	一時ファイルの読み込み処理で一部データの読み込みに失敗した。
クリア方法・条件	次のログデータ登録処理で成功する。

3 インデックスの再作成

Warning List for VVAULT AUDIT 4.5

インデックスの再作成

本製品は予期しないシャットダウンなどでプロセスが異常終了した際、稀にログデータのインデックスが破損する場合があります。下記を参考にインデックスの再作成を実施してください。

インデックス削除について

本製品は、インデックスの破損を検知すると自動で削除を行います。なお、削除中はVAビューアーにログインできません。
削除が完了すると、ログデータの登録が自動的に再開します。

インデックスの作成について

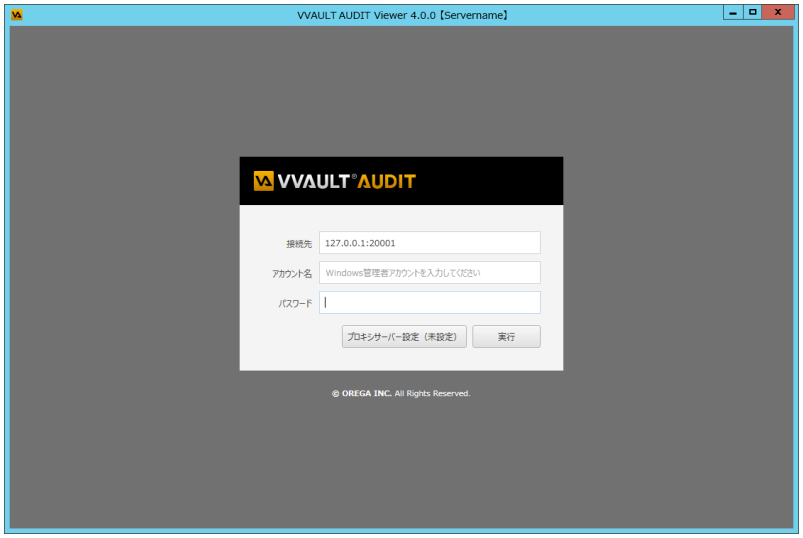
サーバーへの負荷を避け、任意のタイミングで手動実行してください。作成が完了すると、ログデータの検索も可能となり、正常な状態に戻ります。

インデックスの種類について

これまでPGroongaという全文検索拡張機能を使用していましたが、PGroonga用インデックスの破損が散見されるため、今後は別の全文検索拡張機能であるpg_bigm用のインデックスに変更してください。

手順解説

① VAビューアーにログインします。

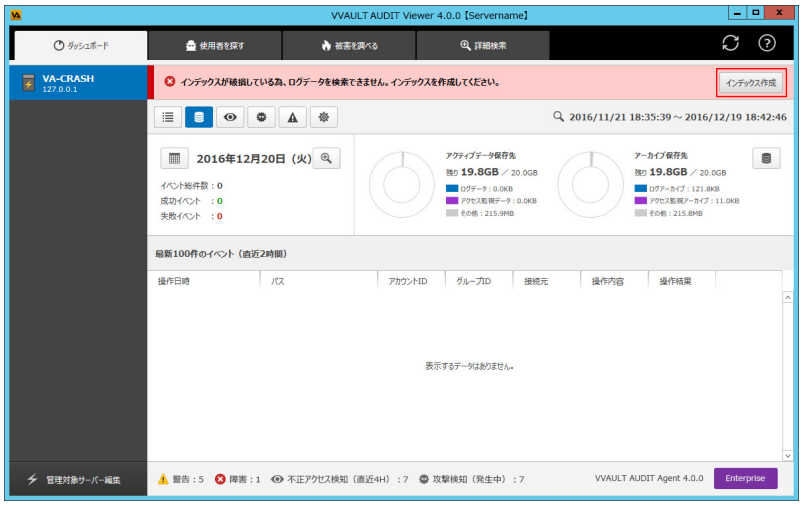


⚠ ご注意

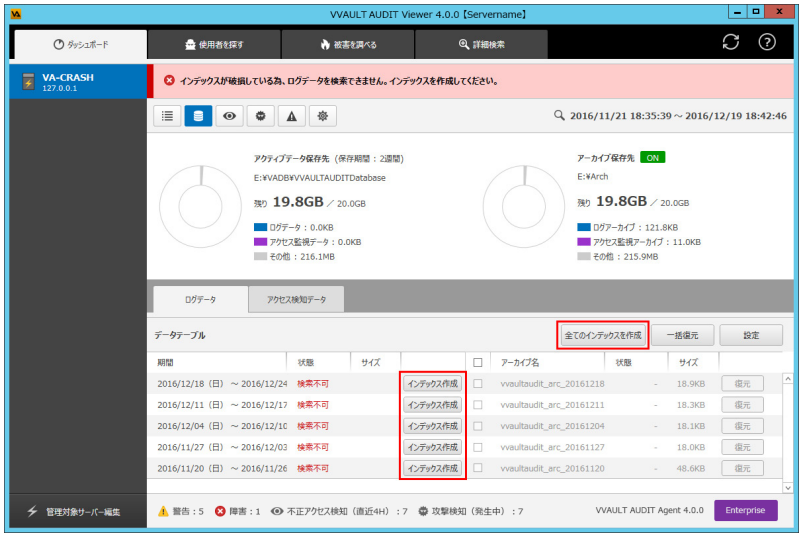
エラーメッセージが表示され、ログインできない場合は、インデックス削除中または削除に失敗した可能性があります。エラーメッセージの内容に応じて各種対応を行ってください。

手順解説

② インデックスの種類を変更するため、「システム設定」ボタンをクリックして表示されるシステム設定画面から「高度な設定」ボタンをクリックして高度な設定画面を表示してください。



③「編集ロック解除」ボタンをクリックし、高度な設定画面で編集を可能にした後、インデックスの種類で pg_bigm を選択し、「決定」ボタンをクリックしてください。なお、すでに pg_bigm が選択されていた場合は、「キャンセル」ボタンをクリックし、⑤へ進んでください。

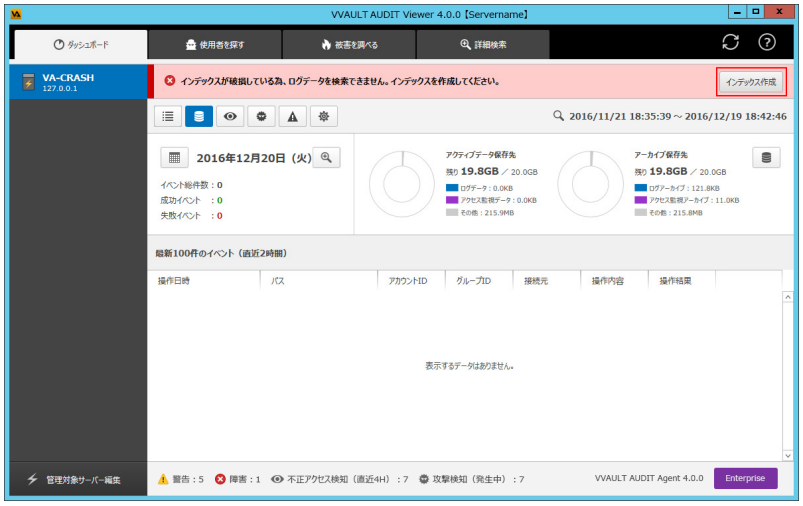


ここで、インデックスの削除が行われるため、一度ログアウトされます。インデックスの削除中はログインができませんので、しばらくお待ちください。

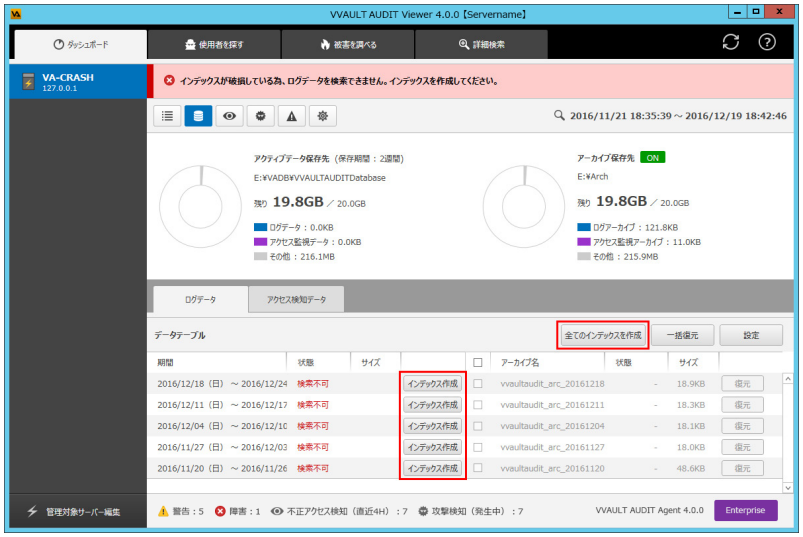
手順解説

④ 再度VAビューアーにログインします。

⑤ 画面上にインデックスが破損している旨のメッセージが表示されていれば「インデックス作成」ボタンをクリックしてください。



⑥ データ管理画面に移動するので、「全てのインデックスを作成」ボタンまたはデータテーブル個別の「インデックス作成」ボタンをクリックしてください。

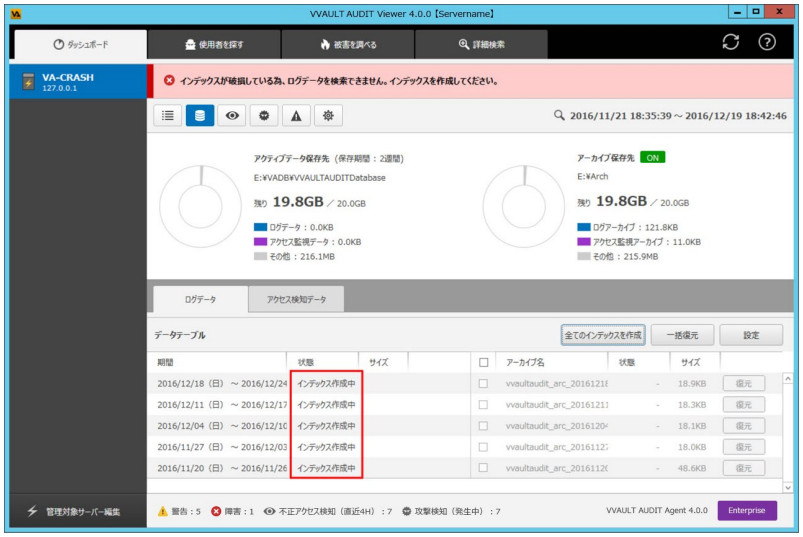


⚠ ご注意

インデックスの作成は、データテーブルのサイズに応じて時間がかかり ます。ローエンドのファイルサーバーでは運用時間帯を避けて実行してください。
※最新期間のデータテーブルのみ、インデックス作成中はログデータの登録処理が停止します。

手順解説

⑦ データテーブルのステータスが”インデックス作成中”に変わります。



⑧ すべてのデータテーブルのステータスが”検索可能”となればエラーメッセージは解除され、正常な状態に戻ります。